子どもと一緒に改めて簗川の魅力を深掘りして

どもと行くと新しい発見があります。

今後は、

子

子どもの成長力とエネルギーにいつも驚かされ に日に出来ることが増えていく娘の姿を見て、

ています。また、普段行き慣れた場所でも、

【大人も子供も楽しい学びの場づくり】

娘が生まれて早くも6ヶ月が経ちました。

日

いきます。

まいりました。育児休暇中の高橋隊員には第一子が誕生し、池内さんはご懐妊されるな 今年は雨が多く夏らしい日が少なかったですが、そんな中でも我々は元気に活動して でまってジャー

2022 夏~秋号-盛岡市 農政課協力 隊 発 行

でつくっていきたいです。

(高橋

佑未)



★牛さんとのふれあい

【マンダノキの活動について】

富岡 美恵

手伝いさせてもらっています、協力隊大ヶ生担 草刈り、りんごの摘果、きゅうりの作業などお た。春の田んぼの種蒔きから始まり、田植え、 たくさんのトンボが飛び交う季節になりまし 蒸し暑い日々が続き、気が付いたら家の前を

はなかった環境をとても羨ましく思います。 野菜を育てて食べてみる。自分が子どもの頃に ひ同じ体験をしてほしいと思っています。自然 に手作りする楽しさ」を知りました。)触れ合い季節の移ろいを感じる、 自分で畑で 簗川に来て、私は「自然の美しさ」と「丁寧 娘にもぜ

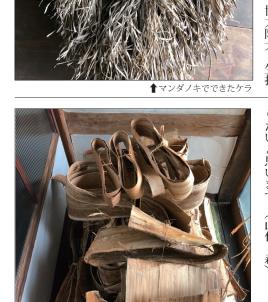
る機会が増えました。子どもはもちろん、親御 さん自身も子どもと一緒に色々な体験をして学 娘を通じて子育て世代の方々とお話す

当の山代です。

びたいと考えている方が多くいらっしゃいま

大人も子どもも楽しく遊び学べる場を簗川

りたいと思います。(山代 ジャーナルで経過報告できるように地道に頑張 活のための道具をつくれたら…次回のねまって 地域の中にある「素材」を使って昔のように牛 優しく」という言葉がよく聞かれる昨今ですが、 頂き、 ます。 縄やカバンを試作してみる目標です。「環境に かな木の繊維を取り出し、それらを使って冬に 薪ストーブの灰と一緒に煮詰めて、硬くしなや 知り、それにならって現代でも山の素材を使っ たものづくりができないかと考えています。7 マンダノキとは正式名称を「しなのき」という ンダノキ」の活動について紹介させて頂きます。 / キを使ったものづくりが行われていたことを >などを作るのにその樹皮が用いられてきまし 今回は今年の春から少しずつ進めている あるお宅のお庭に生えていた木を切らせて 僕の暮らす大ヶ生地域でも、 数人でその樹皮を剥ぎ取りました。秋に 今のように化学繊維が普及していなかっ ケラ(雨具)やロープ、 梅雨時期に樹皮を剥ぎ取ることができ 山仕事のカバ かつてマンダ



↑幹から樹皮を剥いだ状態

になったと実感しています。

以上に野生動物と人の関わり方が問われる時代

/シシの生息域拡大などが起きており、 今まで

最近は盛岡でもクマの市街地への出没や、イ

残り一

年で何を残せるか】

ありがとうございます。このアンケート結果を

楽しみです。協力していただいた皆様、

マで発行を重ね、最終的には本としてまとめた いとずっと考えていたので、今後も様々なテー 生で体験してきたことを写真と文章で形にした 第一号目はよもぎ餅をテーマにしました。大ヶ 大ヶ生をテーマにした冊子作りを始めました。

いと思っています。

だ回収していませんが、どんな結果になるのか 布しました。この記事を書いている段階ではま う、岩手大学の学生さんたちと協力して鳥獣被 獲以外の手段を使った効率的な対策も行えるよ

害対策のアンケートを作成し、大ケ生地域に配



ます。引き続き応援とご協力のほどよろしくお 域の皆様とこれから考えていきたいと思ってい 踏まえて、どんな対策を行ったらいいのかを地 願い致します。 (知念 侑希)



↑旧都南村地域で捕獲されたイノシシ

評でした。

の3軒のお宅でブルーベリーを収穫させていた ベリーを活用する活動をしています。大ヶ生 り (今年は大ヶ生のハスカップも急遽使わせて だき、ブルーベリーのかき氷用シロップを作 でこどもたちのおやつの時間に出張もして大好 地で開店した他、津志田にある都南こどもの家 大ヶ生金山の里生産組合 いただきました)、出張かき氷店を開きました。 一昨年・昨年に引き続き、大ヶ生のブルー 無人販売所の隣の敷

用させていただきたいと思っています。 りがとうございました。今後の活動に大いに活 トを全戸配布させていただきました。ご協力あ 7月に大ヶ生の地域資源についてのアンケー



せん。そこで、試験的に大ケ生の地元の有志の たっています。それは盛岡でも例外ではありま

个足という問題に必ずと言っていいほどぶち当

さて、各地の鳥獣被害対策の現場では、

の方々を増やす、という試みを行っています。 てもらい、捕獲に関われる(協力できる)地元 万々に捕獲活動に参加できるハンターを目指し

5

の連休に絵の展示を中心としたイベントをこあ

4月から集落支援員として活動を始め、5月

うかまどの曲り家で一週間開催しました。その

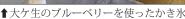
【春から夏にかけて】

また、地域の被害の実態を正しく把握して捕

今後も継続する予定です。

6月には協力隊の知念くん山代くんと3人で

イベント以降、整体とヨガ教室を開催していて、





↑大ケ生をテーマにした冊子 池内 絵美)



↑出産のため故郷へ里帰り中

考えると、自分が体感した「自然と共生」する 場所の中に存在し日常生活とは切り離されたよ み込みを始め、里山・中山間地域での暮らしを 域おこし協力隊として2017年に大ケ生に らしにさまざまな変化がありました。盛岡市 うな状態です。岩手で暮らし続けていく未来を 体験し自然との共生を目の当たりにしました。 【もうすぐ…第三形態に変化します】 に考えて次の世代へ伝えていくことが自分がで こと「暮らしの利便性」を見極めることを真摯 岩手県に移住して5年経ち、その中で私の暮 東京暮らしですと自然が枠の中、定められた

ろいろなことを考えさせられています。これか ので、一緒に活動できることを願っています。 らも微力ではありますが、大ケ生、中山間地域 の今後を考えて活動をしていきたいと思います まれる予定で東京の実家に里帰り中なので、 きることなのかなと思います。10月に子供が生